The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ンデンデウレ語の音韻概要
Author(s)	米田, 信子
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2002, 12, p. 129-145
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71103
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ンデンデウレ語の音韻概要

米田　信子

1. はじめに

ンデンデウレ（Ndendeule）語は，バンツー諸語のひとつでタンザニア西南部に位置するルブマ州の東部で話されている。本稿では，2001年7月～8月に行なった現地調査で収集したデータをもとに，ンデンデウレ語の音韻概要を報告をする。インフォーマントのRaphael R. Njogopaは1956年生まれの男性で両親ともンデンデウレ人である。ンデンデウレ人の中心的な居住地であるナマベンゴ(Namabengo)村に生まれ，以来ずっと同じ村に住んでいる。ンデンデウレ語の他にスワヒリ語を話す。

この言語はGuthrie (1967) の分類には挙げられておらず，隣接地域で話されている「ンゴニ語（N12）」と混同されることが多い。彼ら自身も他者に対しては，自らを「ンゴニ人」，自分たちの言語を「ンゴニ語」と呼ぶことがよくある。しかしながら歴史的に見れば，ンデンデウレ語と言語的に近いのは少し離れたルブマ州西部で話されているマテンゴ語であって，ンデンデウレ語とンゴニ語とは全く別の言語であることがわかる。

ンデンデウレ人が現在のようなひとつの「民族」としてまとまったのは150年ほど前である。当時ルブマ州中央に位置する平野に暮らしていた人々は，19世紀中ごろに南部アフリカから来たンゴニ人の侵攻を受け，その地を追われることになった。その際に西側の山岳地帯へ逃げた人々は「マテンゴ」と呼ばれる民族グループとしてまとまり，東側へ逃げた人々は「ンデンデウレ」[1] としてまとまったと言われている（Ebner 1987:46, Gulliver 1955:27）。つまりンデンデウレ人とマテンゴ人は，他者からの攻撃を受けたことによって同じところに住んでいた人々が分かれてできあがった民族グループである。言語についても，現在のンデンデウレ語とマテンゴ語は，かつては同じ地域に暮す人々が用いていたのであるから，同じ言語(の変種)であったか，あるいは極めて類似する言語であったと考えられる。なおマテンゴ語についての詳細は米田(2000)を参照されたい。

2. 母音と子音

2.1. 母音

ンデンデウレ語の母音体系は次のとおりである。

i　　u
e　　o
ɛ　　ɔ
a

語末に位置する i, u は，それぞれ ɛ, ɔ と交替が可能である。

/ kiβoŋki /	[kʰiβoːŋgi] ~ [kʰiβoːŋgɛ]	「ひたい(sg)」
/ litaku /	[litʰaːtu] ~ [litʰaːtɔ]	「お尻(sg)」

2.1.1. 鼻母音化

音素としての鼻母音はないが，鼻音に後続すると鼻母音化する。鼻母音化は鼻音以外の子音によってさえぎられるが，/ h /と/ w，j / は例外で鼻母音化をさえぎらない。

/ maβɛlɛ /	[mãβɛːlɛ]	「乳房(pl)」			
/ mahupa /	[mãhũːpa]	「骨(pl)」	cf. /lihupa/	[lihuːpa]	「骨(sg)」
/ mwana /	[mwãːnã]	「子(pl)」	cf. /βana/	[βaːnã]	「子(sg)」
/ mjeli /	[mjẽːli]	「体(pl)」			

2.1.2. 母音調和

舌の高さによる母音調和が見られる。派生辞がつく場合は，その前にある母音と調和する。動詞語尾を除けば，語中に/ e, o /と/ ɛ, ɔ /が共起することはない。

派生辞	-il-	/ a, u, i /の後ろ	-butuk-	+	-il-	→	-butukil-
		/ o, e / の後ろ	-homb-	+	-il-	→	-hombel-
		/ ɔ, ɛ / の後ろ	-sɔm-	+	-il-	→	-sɔmɛl-

2.1.3. 長短の対立

ンデンデウレ語には母音の長短に音韻的対立は見られない。文末及びポーズの位置から２つめの音節（以下「次末音節」とする）の母音が基本的に長く発音されるため，音声的には長母音も現われるが，長母音と短母音の音韻的対立を示すものではない。母音に関してンデンデウレ語とマテンゴ語の最も顕著な違いはこの点である。マテンゴ語には母音の長短に対立があり，次のような最小対が存在する。

＜マテンゴ語＞

/ kudʒoβa /	「隠れる」	/ kudʒoːβa/	「皮を剥ぐ」
/ kukɛlɛla /	「肉をばらす」	/ kukɛːlɛla /	「熟す」

2.2. 子音

ンデンデウレ語の子音は以下のとおりである。

		両唇音	歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	(vl)	p	t			k	
	(vd)			ɖ			
摩擦音	(vl)		s				h
	(vd)	β			ʒ	ɣ	
側面接近音			l				
鼻音		m	n		ɲ	ŋ	
半母音		w			j		

cf. **＜マテンゴ語＞**

		両唇音	歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	(vl)	p	t			k	
摩擦音	(vl)		s				h
	(vd)	β				ɣ	
破擦音	(vd)				dʒ		
側面接近音			l				
鼻音		m	n		ɲ	ŋ	
半母音		w			j		

2.2.1. 有気音と無気音

無声閉鎖音の有気音と無気音に音韻対立はない。必ず有気音（[pʰ]，[tʰ]，[kʰ]）で現われるのは語頭と次末音節である。末尾音節ではどちらも聞かれる。それ以外の環境では無気音（[p]，[t]，[k]）で現われる。

/ lupalɔ /	[lupʰaːlɔ]		「ふるい（sg）」
/ lipapu /	[lipʰaːpʰu] ～	[lipʰaːpu]	「肺（sg）」
/ lipapanilu /	[lipapanĩːlu]		「肩甲骨（sg）」
/ itompi /	[itʰoːmbi]		「山（pl）」
/ ŋkati /	[ŋgaːtʰi] ～	[ŋgaːti]	「～のような」
/ ituŋkua /	[ituŋguːa]		「たまねぎ（pl）」
/ kiβeɣa /	[kʰiβeːɣa]		「土鍋（sg）」
/ lihuki /	[lihuːkʰi] ～	[lihuːki]	「汗」
/ likalaŋki /	[likalaːŋgi]		「酒用大鍋（sg）」

2.2.2. 有声音と無声音

ンデンデウレ語の閉鎖音には有声と無声の音韻対立がない。無声閉鎖音/ p /，/ t /，/ k /は，鼻子音に先行される環境ではそれぞれ有声閉鎖音[b]，[d]，[g]で現われる。

/ lutumpɔ /	[lutʰuːmbɔ]	「腹（sg）」
/ liɣɔntɔ /	[liɣɔːndɔ]	「ワニ（sg）」
/ kukoŋka /	[kukʰoːŋga]	「結ぶ」

また無声摩擦音/ s /は有声破擦音[dʒ]を異音にもつ。鼻子音に先行される環境では，/ s /は[dʒ]で現われる。

/ liʒunsu /	[liʒuːɲdʒu]	「かかと（sg）」

ただし鼻子音の後ろのこのような現われ方は，いずれも同調音点の鼻子音と子音結合（後述）した場合だけであり，音節主音的鼻音に先行された場合には別の現われ方をする。これについては 2.2.7.①で述べる。

2.2.3. 摩擦音と閉鎖音・破擦音

2.2.2.で述べた無声閉鎖音・無声摩擦音の異音である有声閉鎖音[b], [g]と有声破擦音[dʒ]は，有声摩擦音の異音としても現われる。/ β /, / ɣ /, / ʒ /が音節主音的鼻音に先行されるとき，それぞれ [b], [g], [dʒ]で現われる。

/ tum̩βutukila /	[tʰumbutukʰiːla]	「我々は彼を追いかける」
/ tum̩ɣaβila /	[tʰuŋgaβiːla]	「我々は彼に配る」
/ tum̩ʒempila /	[tʰuɲdʒembeːla]	「我々は彼のために歌う」

ただしこれらは音節主音的鼻音/ m̩ /に先行された場合だけである。有声摩擦音が主音節的鼻音以外の鼻子音（/ n /）と重なる場合の現われ方は 2.2.7.①で述べる。

2.2.4. 摩擦音の口蓋化

有声摩擦音/ ʒ / は，前舌母音以外の母音/ u, o, ɔ, a /が後続すると口蓋化して[ʝ]のように実現される。さらに摩擦が弱まって[j]のように発音されることもある。これは後続する母音が/ ɔ, a /の場合に特によく聞かれる。

/ kuʒanika /	[kʰuʝanĩːka]	～	[kʰujanĩːka]	「乾かす」
/ kuʒɔnsa /	[kʰuʝɔːndʒa]	～	[kʰujɔːndʒa]	「捕まえる」
/ kuʒoβa /	[kʰuʝoːβa]	～	[kʰujoːβa]	「隠れる」
/ mpɛʒu /	[mbɛːʝu]	～	[mbɛːju]	「種」
/ kuʒɛla /	[kʰuʒɛːla]			「熟す」

2.2.5. 側面接近音

/ l /は音節主音的鼻音/ m̩ /に先行されると[ɳ]で現われる。

/ m̩lamɔ /	[ɳɳã:mɔ̃]	「義兄弟（sg）」
cf. / βalamɔ /	[βala:mɔ̃]	「義兄弟（pl）」

2.2.6. 鼻子音

鼻子音/ m, n, ɲ, ŋ /は，母音の前だけでなく半母音以外の子音の直前にも位置すること

ができる。その場合はそれらの子音と同調音点で現れる。ただし/l/, /h/の前ではそれぞれ[ɳ], [ŋ]で現われる。

2.2.7. 子音結合

①鼻子音＋無声閉鎖音・無声摩擦音

無声閉鎖音と無声摩擦音/s/は同調音点の鼻子音と子音結合する。その際，閉鎖音と摩擦音には有声化が起こる。また摩擦音は口蓋破擦音で実現されるため，鼻子音も口蓋音で現われる。それぞれの例は2.2.2.と3.1.2.を参照のこと。

/m/ + /p/ [mb]
/n/ + /t/ [nd]
/ŋ/ + /k/ [ŋg]
/n/ + /s/ [ɲdʒ]

これらの子音結合以外に，音節主音的鼻音の接辞/m̩/（3.2.参照）あるいは音節主音的ではない鼻子音1音からなる接辞/n/が子音からはじまる形態素に付加されるとき，形態素の境界で鼻子音と子音が重なることになる。その場合は次のような現われ方をする。閉鎖音，摩擦音については2.2.3.と重複するものもあるが，まとめて示す。

形態素 m̩- + 子音 「彼を～する」	形態素 n- + 子音 「私は～する」	
/m/+/p/ → [mp]	/n/+/p/ → [mb]	
[mpʰɔkʰɛːla]	[mbɔkʰɛːla]	/-pɔkɛla/「迎える」
/m/+/β/ → [mb]	/n/+/β/ → [m]	
[mbeːŋga]	[meːŋga]	/-βeŋka/「追う」
/m/+/m/ → [mm]	/n/+/m/ → [m]	
[mmãɲːã]	[maɲːã]	/-maɲa/「知る」
/m/+/t/ → [nt]	/n/+/t/ → [nd]	
[ntupʰuːla]	[ndupʰuːla]	/-tupula/「引抜く」
/m/+/s/ → [ɲtʃ]	/n/+/s/ → [ɲdʒ]	
[ɲtʃuluːsa]	[ɲdʒuluːsa]	/-sulusa/「売る」

/ m / + / l / → [ɳɳ]	/ n / + / l / → [ɳ]		
[ɳɳɛ̃:la]	[ɳɛ̃:la]	/-lɛla/	「育てる」
/ m / + / n / → [nn]	/ n / + / n / → [n]		
[nnũ:hã]	[nũ:hã]	/-nuha/	「嗅ぐ」
/ m / + / ɖ / → [ɳɖ]	/ n / + / ɖ / → [ɳ]		
[ɳɖɛ:ɲã]	[ɳɛ̃:ɲã]	/- ɖɛɲa/	「砕く」
/ m / + / ʒ / → [ɲdʒ]	/ n / + / ʒ / → [ɲ]		
[ɲdʒimũhã]	[ɲĩmũhã]	/-ʒimuha/	「起こす」
/ m / + / ɲ / → [ɲɲ]	/ n / + / ɲ / → [ɲ]		
[ɲɲũ:hã]	[ɲũ:hã]	/-ɲuha/	「揺らす」
/ m / + / k / → [ŋk]	/ n / + / k / → [ŋg]		
[ŋka:ŋga]	[ŋga:ŋga]	/-kaŋka/	「押す」
/ m / + / ɣ / → [ŋg]	/ n / + / ɣ / → [ŋ]		
[ŋgɛ:ɣa]	[ŋɛ̃:ɣa]	/-ɣɛɣa/	「背負う」
/ m / + / ŋ / → [ŋŋ]	/ n / + / ŋ / → [ŋ]		
[ŋŋãmũ:ta]	[ŋãmũ:ta]	/-ŋamuta/	「夢見る」
/ m / + / h / → [ŋh]	/ n / + / h / → [h̃]		
[ŋhõmbe:la]	[hõmbe:la]	/-hompila/	「飛びつく」

いずれも調音点の同化は起こるが，/ n /は続く子音に対して有声化を引き起こしているのに対して，音節主音的鼻音の場合には有声化は起こっていない。

②子音＋半母音

半母音/ w, j /は，常に他の子音と結合して現われる。/w/は/ ɖ, s, ŋ /以外の子音（半母音は除く）と結合し，/ j /は/ p, t, k, h, l, m /と結合する。

/ p / + / w /	[pw]	/ p / + / j /	[pj]
/ t / + / w /	[tw]	/ t / + / j /	[tj]
/ k / + / w /	[kw]	/ k / + / j /	[kj]
/ h / + / w /	[hw]	/ h / + / j /	[hj]

/β/	+	/w/	[βw]				
/ʒ/	+	/w/	[ʒw]				
/ɣ/	+	/w/	[ɣw]				
/m/	+	/w/	[mw]	/m/	+	/j/	[mj]
/n/	+	/w/	[nw]				
/ɲ/	+	/w/	[ɲw]				
/l/	+	/w/	[lw]	/l/	+	/j/	[lj]

③鼻子音＋閉鎖音・破擦音＋/w/

①の鼻子音と閉鎖音・破擦音の子音結合は，さらに/w/と結合できる。

/m/	+	/p/	+	/w/	[mbw]
/n/	+	/t/	+	/w/	[ndw]
/n/	+	/s/	+	/w/	[ɲdʒw]
/ŋ/	+	/k/	+	/w/	[ŋgw]

3. 音節

音節は開音節で，(N)C(S)V，N，V と構成される（N は鼻子音，C は半母音を除く子音，S は半母音，V は母音を表わす）。以下それぞれの例を挙げて，実際の現われ方を示す。音節の境界はピリオド（．）で表わす。

なお，[b]，[d]，[g]，[tʃ]，[dʒ]，[ɳ]は音素ではないが，/　/で囲んだ音素表記以外の場合は，実際の音の現われ方をわかりやすくするためにそれぞれの音で表記する。音節主音的鼻音と接辞の n-も同様に，調音点によって，m，n，ɲ，ɳ，ŋ のように表記する。/β/，/ɣ/に関しては，語彙集で用いたフォントとの関係で，それぞれ b，g の文字を用いて表記することにする。

3.1. (N)C(S)V

3.1.1. CV

最も基本的なンデンデウレ語の音節構造である。半母音以外の子音は，あらゆる母音との組み合わせが可能である。

mata	ma . ta	「唾」
magɛla	ma . gɛ . la	「鍬（pl）」
likololo	li . ko . lo . lo	「コウモリ（sg）」

3.1.2. NCV

「鼻音＋閉鎖音・破擦音」の子音結合（2.2.7.①）に母音が続いた音節。

ɲumba	ɲu . mba	「家（sg,pl）」
lipanda	li . pa . nda	「枝（sg）」
ɲaɲdʒa	ɲa . ɲdʒa	「湖（sg,pl）」
liŋgɔma	li . ŋgɔ . ma	「羽毛（sg）」

3.1.3. CSV

「子音＋半母音」の結合（2.2.7.②）に母音が続いた音節。母音は，/ w /の後ろでは/ u /以外の母音，/ j /の後ろでは/ i /以外の母音に限られる。

kikwɛmula	ki . kwɛ . mu . la	「櫛（sg）」
kihɛgwa	ki . hɛ . gwa	「木（sg）」
luhjobu	lu . hjo . bu	「爪（sg）」
kupjɛga	ku . pjɛ . ga	「料理が完成する」

3.1.4. NCSV

「鼻音＋閉鎖音・破擦音＋/ w /」の子音結合（2.2.7.③）に母音が続いた音節。

kumbwani	ku . mbwa . ni	「岸」
kiŋgwɛkɔ	ki . ŋgwɛ . kɔ	「しゃっくり（sg）」
aɖendwili	a . ɖe . ndwi . li	「戸を閉めた」
luɲdʒwɛmba	lu . ɲdʒwɛ . mba	「ひげ（sg）」

3.2. N

/ m /は，後ろに母音を伴わずに単独で音節主音的鼻音として立つことができる。音節主音的鼻音は，後続する子音と同じ調音点で現われる（後続する子音が / h / の場合は[ŋ]）。これらはひとつの音素 / m̩ /の異音であるが，さらにこれは形態素 mu - の異形態 [2] で，それ以外の現われ方をすることはない。つまり音節主音的鼻音は，複数音節の形態素内ではなく単音節形態素としてのみ現われる。

ntʃikana	n . tʃi . ka . na	「女の子（sg）」
ŋkambɔ	ŋ . ka . mbɔ	「水浴び用の瓶（sg）」
kumpala	ku . m . pa . la	「彼を必要とすること」

3.3. V

形態素頭にのみ見られる。

anda	a . nda	「後で」
ibena	i . be . na	「２つ」

4. 声調

現在のンデンデウレ語には声調の音韻対立はなく，基本的に次末音節が高く現われる。これは母音の長さに音韻対立がないことと並んで，ンデンデウレ語とマテンゴ語の最も顕著な違いのひとつである。マテンゴ語の声調による最小対がンデンデウレ語では同音異義語になることもある。

<マテンゴ語>

/ lihína / [lihîːnã] 「幹（sg）」　　/ lihiná / [lihĭːnã] 「名前（sg）」

<ンデンデウレ語>

/ lihína / [lihîːnã] 「幹（sg）」　　/ lihína / [lihîːnã] 「名前（sg）」

しかしながら名詞を単独で何度か発音してもらうと高声調が語頭音節に現われることが

少なからずあった。そのほとんどが次末音節との「ゆれ」であったが，常に語頭音節に高声調が現われたものも僅かながら存在する（資料の語彙表＊印）。ただしこれらも単独でなければその他の名詞と差がなくなる。

5. 終わりに

限られたデータと分析からではあるが，以上が現時点で明らかになったンデンデウレ語の音韻概要である。残る課題はもちろん山積みであり，書きながら浮かび上がった問題点も少なくない。その中で最も気になっているのが/ ɖ /の存在である。この音の位置づけ，特に/l/との関係を詳しく調べる必要がある。

筆者はこれまでマテンゴ語の記述研究を行なってきたが，先に述べたような歴史背景をもつンデンデウレ語とマテンゴ語の比較研究は言語変容を知る上で極めて有益であると思われる。今後さらにンデンデウレ語の調査を進め，マテンゴ語との比較研究に発展させていきたいと考えている。

＜謝辞＞

ンデンデウレ語の現地調査は，2001 年度学術研究（海外調査）「アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態」(代表：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授 梶 茂樹)による。またマテンゴ語の現地調査は，1996～1998 年度学術研究（海外調査)「東アフリカにおける地域共通語に基づく文化圏生成とエスニシティの構造」(代表：大阪外国語大学教授 宮本正興)による。記して感謝の意を表わしたい。

注

(1)「マテンゴ」という名称は“kitɛŋgu「森」”に由来し，ンゴニから逃げ住んだ山岳地帯の「森に住む人々」を意味すると言われている。「ンデンデウレ」という名称は，ンゴニの攻撃に逃げ惑う人々が口にしていた“ndɛnda βolɛ「私はどうすればいいのだ」”に由来すると言われている。いずれの名称もこれらがンゴニの襲撃後にまとまったグループであることを示している。

(2) mu-は１，３クラスの名詞接辞と三人称単数の目的格接辞である。直後に子音が続く場合は母音が脱落し，/ m /だけになる。これが音節主音的鼻音として現われる。

＜資料：ンデンデウレ語とマテンゴ語　基礎語彙 200 語対照表＞

「バントゥ諸語語彙調査票試案」（湯川 1977）の中に記されているバンツー語重要基本単語 200 を挙げる。ンデンデウレ語は声調の対立がないので表記していないが，常に次末音節が高く発音される。マテンゴ語には，その単語が単独で発音される場合の声調を記す。基本的にンデンデウレ語は Namabengo 村で話されているもの，マテンゴ語は Litembo 村で話されているものである。両村ともそれぞれの民族の中心的居住地である。表中の[Nam]は Namabengo 村よりも東にある Namtumbo 村，[Mpapa]は Litembo 村よりも西にある Mpapa 村の略で，それぞれの村で使われている単語を挙げている。

	日本語	ンデンデウレ語	マテンゴ語
1	頭	mutu - mitu	umûtu - mimûtu
2	髪	liʒuɲdʒu - maʒuɲdʒu	lídʒundzu - mádʒundzu
3	目	lihu - mihu	ĩhu - mîhu
4	鼻	mbulu - mbulu	ímbulu - ímbulu
5	口	ɳɳɔmɔ - milɔmɔ	ńdɔmɔ - mílɔmɔ
6	舌	lulimi - milimi	lúlimi - ínimi
7	歯	linu - minu	ĩnu - mînu
8	ほほ	litama - matama	lúkŭtwa - mákŭtwa
9	耳	lisikilɔ - masikilɔ	likûtu - makûtu
10	首	hiŋgɔ - hiŋgɔ	híŋgɔ - híŋgɔ
11	身体	meli - mjeli hjega - hjega 〔Nam〕	hjêga - hjêga
12	皮膚	kimbɛndɛla - imbɛndɛla kikumba - ikumba	lúkanda - ŋgânda
13	肩	libɛga - mabɛga	ĩ:bɛga - mábɛga
14	乳房	libɛlɛ - mabɛlɛ	líbɛli - mábɛli
15	腹	lutumbɔ - matumbɔ	lútumbu - índumbu
16	背中	ŋgɔŋgɔ - migɔŋgɔ	ńgɔŋgɔ - mígɔŋgɔ
17	尻	litaku - mataku	ĩ:taku - mátaku
18	腕	lubɔkɔ - mabɔkɔ	kúbɔku - mábɔku
19	指	luŋgɔɲdʒɛ - ŋgɔɲdʒɛ	lúkɔndzi - ŋgɔ̂ndzi
20	爪	luhjobu - hjobu	sôbu - hjôbu
21	脚	lugɛndɛnɔ - magɛndɛnɔ	kúgolu - mágolu
22	ひざ	liʒoga - maʒoga	ligɔ́ti - mágɔ̌ti
23	骨	lihupa - mahupa	ĩ:hupa - máhupa
24	血	mwahɛ	mwâhi
25	心臓	mwɔʒɔ - mjɔʒɔ	mwɔ̂dʒɔ - mjɔ̂dʒɔ ńtima - mítima
26	肝臓	kibendi - ibendi	ĩ:mani-ímani
27	涙	lihɔli - mahɔli	ĩ:hɔli - máhɔli

28	息をする	kupomulela kukɛka	kúpomola
29	唾	mata	imâta
30	見る	kulɔla	kúlɔla
31	聞く	kuʒoha	kúdʒogwa
32	傷	kilɔnda - ilɔnda	kílɔnda - ílɔnda
33	腫れる	kutupa	kúhimba
34	吐く	kutapika	kútapika
35	視覚障害者	ʒwaŋgalɔla - baŋgalɔla	ŋgalɔ̂la-ákaŋgalɔ̂la
36	治る	kulama	kúlama
37	伝統医	ŋaŋga - bagaŋga	ŋ́gaŋga - ágaŋga
38	着る	kuhwala	kúhwata
39	洗濯する	kusapa	kúsapa
40	干す	kuʒanika	kúdʒanika
41	縫う	kusɔna	kútɔta
42	水浴する	kusamba kuʒoga	kúhoga
43	塩	mwiɲu	mwîɲu
44	油	mahuta	máhuta
45	料理する	kutɛlɛka	kútɛlɛka
46	焼く	kuʒosa	kúdʒɔsa
47	食べる	kuljɛga	kûlja
48	吸う	kuʒɔŋga	kúdʒɔŋga
49	飲む	kuɲɛga	kûɲa
50	空腹	ɲdʒala	índzala
51	腐る	kubɔla	kúbɔla
52	家	ɲumba - ɲumba	ɲûmba - ɲûmba
53	建てる	kusɛŋga	kúsɛŋga
54	ほこり	lutukunda	luhômbi
55	父	tatɛ - akatatɛ	atâti - ákatâti
56	母	amaʒe - akamaʒɛ mabɔ - mabɔ 〔Nam〕	amâbɔ - ákamâbɔ
57	子	mwana - bana	mwâna - bâna
58	妻をめとる	kutɔlɛla	kútogola
59	嫁ぐ	kutɔlɛla	kútogulela
60a	夫	ŋgana - baŋgana	álomi / ńlomi - ákălomi
60b	妻	ɳala - badala	áhanu / ŋ́hanu - ákăhanu
61a	産む	kupapa	kúbɛlɛka
61b	生まれる	kubɛlɛka	kúlakɛka
62	名前	lihina - mahina	lihína - máhĭna
63	育つ	kulula	kúkola
64	人	mundu - bandu	mûndu - bându
65	死ぬ	kuhwɛga	kûha
66	犬	ligalu - magarɔ	dʒímbwa - ímbwa

67	噛みつく	kuluma	kúluma
68	牛	ŋɔmbɛ - ŋɔmbɛ	ŋɔ̂mbi - ŋɔ̂mbi
69	乳を絞る	kumiɲa	kúkaba
70	豚	ligolobi - magolobi	ligólobi - mágolobi
71	山羊	mbuhi - mbuhi	ímbuhi - ímbuhi
72	動物	muɲama - iɲama	kíɲama - íɲama
73	ライオン	lihimba - mahimba	líhimba - máhimba
74	象	ndɛmbɔ - ndɛmbɔ	ndêmbu - ndêmbu
75	カバ	---	ndɔmɔ̂ndɔ - ndɔmɔ̂ndɔ
76	尻尾	ŋkela - mikela	ŋ́kela - míkela
77	狩する	kubeŋga	kubeŋga（後を追う）
78	弓	mpendi - mipendi	úpendi - mípendi
79	突き刺す	kukɔha	kúhuma
80	わな	ntɛgɔ - mitɛgɔ	kítaba - ítaba
81	肉	ɲama - ɲama	íɲama - íɲama
82	蛇	liʒɔka - maʒɔka	ĩ:dʒɔka - mádʒɔka
83	蟹	---	lindʒégi - mándʒĕgi
84	魚	homba - homba	hômba - hômba
85	鳥	kiʒuni - iʒuni	kídʒuni - ídʒuni
86	卵	lihombi - mahombi	lihómbi - máhŏmbi
87	翼	lipapanilu - mapapanilu	kípapatila - ípapatila
88	飛ぶ	kumbuluka kúgoloka 〔Nam〕	kúgoloka
89	蜜	kiŋgwɛɲdʒɛ - iŋgwɛɲdʒɛ	búsi
90	蚊	luɲdʒɛɲdʒɛma - iɲdʒɛɲdʒɛma	lundzêndzɛma - ndzêndʒɛma
91	木	ŋkɔŋgu - mikɔŋgu	ŋ́kɔŋgu - míkɔŋgu
92	葉	lihamba - mahamba	líhamba - máhamba
*93	花	líloba - máloba	ĩ:loba - máloba
94	種	mbɛʒu - mbɛʒu	lúmbɛdʒu - ímbɛdʒu
95	根	ŋkega - mikega	ŋ́kega - míkega
*96	果実	úhɔhi - míhɔhi	lutúnda - mátŭnda
97	畑	lituhi - matuhi ŋgunda - migunda	litûhi - matûhi ŋ́gonda - mígonda
98	耕す	kulema	kúlema
99	くわ	ligɛla - magɛla	ĩ:gɛla - mágɛla
100	刈り取る	kuhuna	kúhuna
101	横になる	kugɔlɔka	kúgɔlɔka
102	立つ	kuʒema	kúdʒema
103	座る	kutama	kútama
104	行く	kuʒabula kuʒenda	kúdʒenda
105	来る	kubuʒa kuhuma（～から来る）	kúhika
106	入る	kuʒiŋgila	kúdʒiŋgila

107	出る	kupita	kúpita
108	帰る	kukelabuka (see 105)	kúbudʒa kúkelabuka(戻る)
109	着く	kuhika	kúhika
110	通る	kupeta	kúpeta
111	道	ndela - ndela	indêla - indêla
112	作る	kutɛndɛkɛha	kúleŋganakea
113	火	mwɔtɔ	mwôtɔ
114	灰	lihɔ	lîhu
115	煙	ljɔhɛ / mahjɔhɛ	lihjôhi
116	燃える	kuʒaka	kúɲaka kúʒaka〔Mapapa〕
117	消す	kuhimiha	kúsusua
118	火にあたる	kuʒota	kúɲata kúʒota〔Mpapa〕
119	薪	luhaɲdʒu - haɲdʒu	lúhandzu-hândzu
120	水	masɛ	mâsi
121	汲む	kutɛka	kútɛka
122	言う	kulɔŋgɛla	kúpwaga kúlɔŋgɛla（おしゃべりする）
123	呼ぶ	kukɛma	kúkɛma
124	遊ぶ	kukina	kúkina
125	歌う	kuʒemba	kúdʒemba
126	太鼓	ŋɔma - ŋɔma	íŋɔma - íŋɔma
127	投げる	kutaga	kúlɛkɛla
128	罵る	kuliga	kútondola kúliga （のろいの言葉を吐く）
129	殴る	kutɔba kumɛɲa	kúlimaŋga
130	与える	kupɛla	kúpɛkɛa
131	盗む	kuʒiba	kúdʒiba
132	会う	kukɔŋgana	kúketaŋganela kúhimanila
133	戦争	ŋgɔndu - ŋgɔndu	ŋgôndu - ŋgôndu
134	殺す	kukɔma	kúkɔma
135	笑う	kuhɛka	kúhɛka
136	泣く	kulela	kúlela
137	好む	kupala	kúpala
138	知る	kumaɲa	kúmaɲa
139	1	ʒimɔ	dʒímɔ
*140	2	íbena	ibélí
*141	3	ítatu	itátu
142	4	ɲtʃɛtʃɛ	nsési
143	5	ŋhanɔ	ŋhánɔ́
144	1 0	komi	likômi

145	数える	kubalaŋga	kúbalaŋga
146	多くの（物）	hjamahɛlɛ	hîŋgi
147	全ての（物）	hjɔha	hjô̂ha
148	持つ	kukamula	kúkamula
149	落ちる	kugwɛga	kúhabuka
150	拾う	kulɔkɔta	kútɔndɔla
151	引っ張る	kuhuta	kúhuta
152	押す	kukaŋga	kúkaːŋga
153	結ぶ	kukoŋga	kúkoŋga
154	曲げる	kupenda	kúpenda
155	切る	kudumula	kúsɛkula
156	破る	kuʒwɛpula	kúkasula
157	上	kunanɛ	kunánɛ
158	下	pahi	páhi
159	内	ŋkati	ŋkâti
160	外	pandʒa	pandza
161	赤い（物）	kikɛlɛ	kikɛli
162	白い（物）	kja ntʃɔpɛ	kihûhu
163	黒い（物）	kipili	kidʒîlɔ
164	太陽	ljoba	ljô̂ba
165	月	mwɛhi	mwê̂hi
166	星	lundɔndɔ - ndɔndɔ	lútɔ̌ndɔ - ndɔ́ndɔ
167	雲	lihundi - mahundi	líhundi - máhundi
168	雨	hula	íhjula
169	風	mpogu	ŋhwâi
170	吹く	kupoga	kúpoga
171	山	kitombe - itombe	kitômbi - itômbi
172	川	losi - losi	lôsi - lôsi
173	森	dasi - dasi	kítɛŋgu - ítɛŋgu
174	沈む	kumila	kúhɔbɛla
175	渡る	kuʒombɔka	kúlɔmbɔka
176	カヌー	---	---
177	石	ligaŋga - magaŋga	ílibu - ímabu
178	砂	mahjaŋga	hɔ̌kɔ
179	穴を掘る	kugima	kúhɔla
180	埋める	kuhjɛlalɛla	kúhibalila
181	日	liɲdʒoba - maɲdʒoba lisoba - masoba 〔Nam〕	ljô̂ba - másoba
182	夜	kilu	ikîlu
183	今日	lelenu	lê̂lê̂nu
184	年	mwaka - mjaka	mwâka - mjâka
185	良い（物）	kjamaha	kinjâhi
186	悪い（物）	kihakahɔ	kihákau
187	大きい（物）	kikoloŋga	kíkolô̂ŋgu

188	小さい（物）	kisɔkɔmbi	kísɔ̌kɔ
189	長い（物）	kitandamahu	kilâsu
190	短い（物）	kihupi	kídʒǐpi
191	重い（物）	kitɔpɛhu	kitɔ́pɛu
192	寒さ	uʒɔʒɔhu	kípɛpu
193	新しい（物）	kihjɔnɔ	kinjâhi
194	他の（物）	heŋge	hjéŋgi
195	私	nɛŋga	nêŋga
196	君	gwɛŋga	gwêŋga
197	私たち	twɛŋga	twêŋga
198	君たち	mwɛŋga	mwêŋga
199	誰？	gani	ɲâːnɛ
200	何？	nikɛ	kikɛ

参考文献

Ebner, Elzear P. 1987. *The History of the Wangoni.* Benedictine Publications, Peramiho.

Gulliver, P. H. 1955. "A History of the Songea Ngoni." *Tanganyika Notes and Records* 41, 16-30.

Guthrie, M. 1967. *The classification of the Bantu Languages*, Dawsons of Poll Mall, London.

米田信子 2000. 『マテンゴ語の記述研究（バンツー系，タンザニア）－動詞構造を中心に－』東京外国語大学に提出した博士論文.

湯川恭敏 1979.「バントゥ諸語語彙調査票試案」，『アジア・アフリカ言語文化研究』17, 139-212.